

529ヘクタールの水源の森からのホットな情報発信

第150号 2016年11月

# やどりき水源林ニュース

発行 (公財) かながわトラストみどり財団 編集 NPO 法人かながわ森林インストラクターの会  
 ㊚220-0073 横浜市西区岡野2-12-20 神奈川県横浜西合同庁舎内  
 ㊚045-412-2255 URL: <http://www.ktm.or.jp> E-mail: [midori@ktm.or.jp](mailto:midori@ktm.or.jp)

## 定例観察会のお知らせ (費用等負担はありません)

毎週土曜・日曜の午前10時と午後1時から「NPO 法人かながわ森林インストラクターの会」会員が水源林をご案内します。やどりき水源林ゲート前までお越しください。なお、冬季(12月・1月・2月)は安全確保のため休止します。

## 水源林は色とりどり



秋になって寒くなってくると樹木は水分の吸収などの活動が衰えてきます。一方で、時期的に空気が乾燥しはじめ、樹木は水分を出す蒸散を活発化させます。すると、水分の吸収・放出のバランスが合わないので、蒸散を避けようと葉に離層を作ります。これにより水分や栄養素が樹木と葉の間で遮断されます。

ただ、葉の内部ではしばらくは光合成が行われ、それによりできた糖はアントシアニンという紅葉の色素に変化していきます。

元々あったクロロフィル(葉緑素)がやがて分解されると、アントシアニンにより紅葉します。

中にはアントシアニンを作らない樹木もあります。この場合はクロロフィルが分解されると緑色が消え、元々もっていたカロテノイドという黄色い色素が表にでてくるため、葉は黄色くなります。また、アントシアニンあるいはカロテノイドが酸化するとフロバフェンとなり(但し、諸説あり)、これが褐葉になります。



落葉樹なのに夏に落葉するのでナツボウズ。今の時期は葉が青々としています。



カエデ類に劣らず紅葉の美しいウルシ科のヌルデ



花が山吹色をつけるヤマブキは、黄葉になります。



この褐葉は、飛騨の朴葉味噌で有名なホオノキ



## 秋の水源林の1日

### 「動物調査班の活動」



動物調査班では先日、ムササビやモモンガの住み家となる巣箱をチェック。破損したものについて一部交換作業を実施しました。



交換後の巣箱

### 「やどりきで見られた生物」



サワガニは凍らない越冬場所を求めて落ち葉のある所へやって来たようです。



ヤドリキでは人の血を吸うヤマビルが問題となっています。が、こちらは吸血しません。ミミズなどを丸飲みするクガビルの仲間です。路上を這っていました。

### 「お金に関する樹木」



ミツマタ。樹皮が紙幣の原料になります。



ミヤマシキミ。千両・万両ならぬ億万両の別名を持ちます。

### 11月のピックアップ

木々が徐々に色づきはじめ、秋の足音が近づいている今日この頃です。右の写真はヌスピトハギの果実です。この果実の形は盗人が足袋をはいてつま先だけで静かに歩く、その足跡に似ていることから名付けられたものです。秋の足音と共に盗人の足音も聞こえるかも!?



### 12月以降の水源林

冬季(12月・1月・2月)は安全確保のため森の案内人は休止致します。

年明けは3月4日(土)から開始となります。皆さまのお越しをお待ちしております。